



ふるさと笠松の「ちょっといい話」

「行動4原則が、さわやか青年を育てた！」



インターホンから「すみません。道路での水道工事のことでお話したいことがあります。」という声が聞こえてきたので、急いで玄関に走りました。そこには一人の青年が笑顔で立っていました。そして、ていねいな言葉遣いで水道工事の実施日や内容などを、きちんと私の目を見ながら、明るく大きな声で説明してくれました。あまりにさわやかな感じを受けたので、話が終わった後で思わず、「どこの工事会社の方ですか？」と尋ねました。すると意外にも「役場の職員です。」という答えが返ってきました。

正直なところ、役場の職員という、もう少し違ったイメージを持っていました。いわゆるお役所仕事というイメージです。でも、さわやかでとても気持ちのよい対応だったので、その旨を伝えました。すると、その青年は「役場では行動4原則、つまり・大きな声で、・きびきび行動・自分から挨拶・明るい笑顔で対応することを指導されているので、その通りやっているだけです。」と答えました。役場には「行動4原則」があることや、それが職員に浸透していることを初めて知りました。とてもうれしい出来事だったのでお知らせします。

こんな内容のお電話を町内のKさんからいただきました。とても素晴らしい話です。写真は役場や各施設に常設されている「行動4原則」です。役場の職員以外の方も是非、実行されたらいかがでしょうか？相手がいい気持ちになれること請け合いです。

「一人の力は微力だが、無力ではない。」「道徳は孤独ではない。」

ボランティアで「ゴミ拾い」をしている子たちから、「今日、きれいにしても明日には、またゴミだらけになっている。むなしい。」とか「一人の力じゃ、たいしたことはできない。やっても無駄。」という声が聞こえてきます。確かにゴミを拾う人の数より捨てる人の数の方が圧倒的に多いと思われれます。しかし、ゴミを拾うからこそ、捨ててはいけないということに気付ける人もいると信じたいです。それに、私たちの知らないところで、ゴミを拾ってくれている人が増えていると思える事実もあります。それは道路脇のゴミが確実に減っているのは、誰かが拾ってくれているからでしょう。そう信じてきれいな町づくりをみんなできましょう。



●心あたたまるいい話：それは★意外な話★ピンチに天使が舞い降りた話●

「恩送りをしましょう。」・人から受けた恩を、他の人に順に送っていくという意味

○ 散歩をしていると、前から中学生の女の子が歩いてきました。午後5時頃だったので、「こんにちは」と言おうか「こんばんは」と言おうか迷っていたら、「こんにちは」と先に言われてしまいました。それだけでも心が温かくなったのに、女の子の笑顔の会釈がとても素敵でした。こういう中学生が増えることを心から願っています。
(参考文献：「感動指定席へ」志賀内 泰弘 ごま書房新社)

○ 宮沢賢治に会いたくなって、花巻農業高等学校の敷地内にある賢治記念館を訪ねた時のことです。学校の近くの駐車場に車を止めて、農業学校まで歩いていきました。その時、何人かの高校生とすれ違ったのですが、どの高校生も必ず「こんにちは」と気持ちよく挨拶をしてくれました。まったく見ず知らずの旅行者なのに、挨拶をしてくれるのでとてもうれしくなりました。校庭に入っても作業をしたり、部活動をしている高校生が同じように挨拶をしてくれました。宮沢賢治の生家をみることも感動でしたが、高校生の挨拶にもとても感動しました。もう10年前のことですが、昨日のこのように覚えています。